

山陰における中世の土器・陶磁器流通 - 蔷・壺・擂鉢を中心に -

榎原 博英（島根県浜田市教育委員会）

山陰地域は東から因幡（鳥取県西部）・伯耆（鳥取県西部）・出雲、隠岐（島根県東部）・石見（島根県西部）に分けられている。近年、山陰では中世須恵器や貿易陶磁器の集成が行われているが、遺跡の中世土器の产地・器種別の組成が詳細に示されたものはない。

中世前期は東播系須恵器がほぼ全域で出土し、常滑焼などが少量みられる。14世紀中頃からは備前焼が多くなる。西の石見では博多方面からの中国陶器が少量みられる。山陰の在地系須恵器には岡山の亀山・勝間田系須恵器が強く影響を与えているが、亀山・勝間田の製品自体は因幡・伯耆に出土例が多い。越前焼は常滑焼などと十分に区別されていないが、中世後期には因幡・伯耆・出雲まで確認されている。

東播系須恵器は擂鉢を中心に山陰全体に多く出土例があり、甕も出土している。沿岸部の平野の遺跡にとどまらず、山間部まで幅広く分布が見られる。

備前焼は間壁編年Ⅰ～Ⅱ期（12世紀末～13世紀代）は鳥取県東部（因幡）に少量みられ、Ⅲ期（13世紀代後半～14世紀後半）には島根県でも出土する。間壁編年Ⅳ期（14世紀末～16世紀初頭）には出土量・遺跡密度が増え、特に擂鉢が目立つ。間壁編年Ⅴ期（16世紀初めから17世紀初め）にはⅣ期に続き、城館遺跡を中心に壺・大甕・擂鉢に加え、さまざまな器種が流通するようになる。Ⅵ期（17世紀前半頃）にはⅤ期に比べ量がやや減るが、富田川河床遺跡や石見銀山遺跡など都市遺跡では増えている。

常滑焼は常滑編年2～4型式（12世紀中葉～後葉）の古い段階の甕が島根で少量見られる。その後の時期も出土量は少ないが、山陰全体に出土が見られる。

越前焼は中世後期以降に因幡・伯耆・出雲で鉢、甕が少量出土しているが、石見では確認されていない。常滑焼と区別されず瓷器系と表現される場合が多い。出雲市青木遺跡では多くの越前焼（常滑・産地不明も多い）が出土している。

貿易陶磁器の壺（耳壺類）は経塚や集落遺跡で比較的出土例がある。甕・鉢は量的には少ないが石見を中心に点的に沿岸部の流通拠点や国府（府中）で出土する。

亀山・勝間田系須恵器は甕を中心に因幡・伯耆・出雲ではやや多く出土し、石見は少ない。地理的に近いためか、鳥取では出土例が目立つ。

在地系土器は松江市別所遺跡では焼け損じたような軟質のものや二次焼成をうけたものが多く出土し、近くで亀山・勝間田系の影響がある土器を焼いた可能性がある。器種は鍋・鉢・甕がみられ、軟質で外面格子叩き、内面は同心円叩きのちナデやハケ調整されるものが多い。在地系須恵器を中心とした胎土分析も行われている。

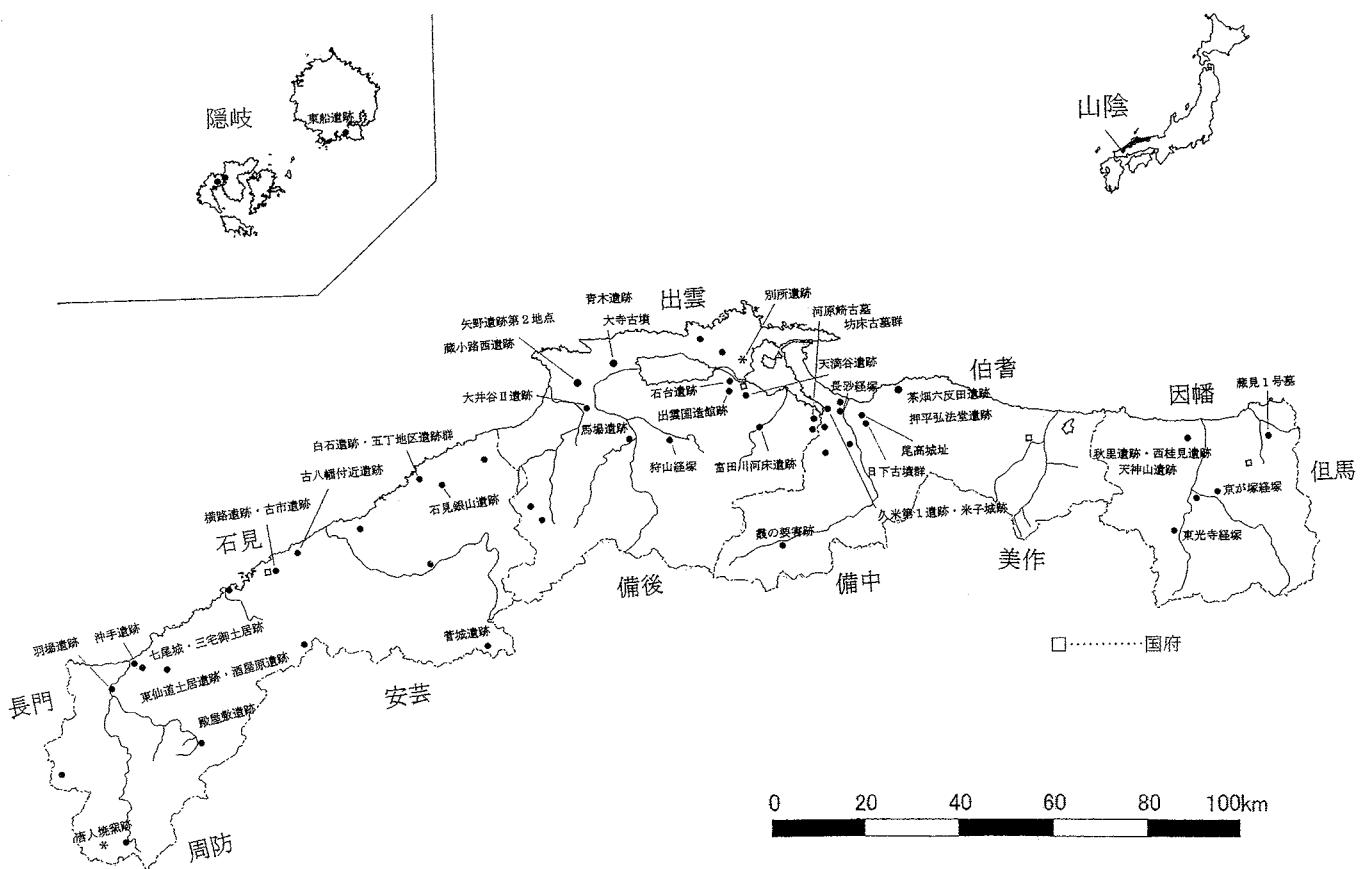
なお、山陰の西側、防長地域では山口市陶の（仮称）動物センター窯跡などで備前焼間壁編年Ⅲ期前半（13世紀後半～14世紀前半）に類似する壺・擂鉢が焼かれていた可能性がある。また、萩市大井の上七重窯跡では常滑焼中野編年6b～7期（13世紀第4四半期～14世紀前半）に類似する甕が焼かれている。

北陸の様相と対比すると、東播系須恵器・備前焼の出土量など大きく異なっているが、越前焼や日引石製石塔など北陸方面からの流通がわずかにみられる。山陰はおおまかに京都・小浜あたりから西への流通が多い「因幡・伯耆・出雲」と西・東からの流通がみられる「石見・隠岐」に分けられる。



参考文献

- 伊藤晃・乗岡実・石井啓・重根弘和・上西高登2004「中世陶器の物流 - 備前焼を中心にして - 」
『日本考古学協会2004年度広島大会研究発表資料集』同大会実行委員会
岩崎仁志2000「防長地域の中世陶器窯」『陶墳』第13号 財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター
木原光2005「益田市沖手遺跡と出土陶磁器」『日本貿易陶磁研究集会第26回研究集会資料集』
山陰中世土器検討会2003『中世須恵器の生産と流通 - 山陰地方を中心に - 』
島根県教育委員会2004『青木遺跡（中近世編）』
(財)鳥取県教育文化財団1998『米子城跡21遺跡』
(財)鳥取県教育文化財団2002『鳥取県西伯郡名和町茶畠六反田遺跡・押平弘法堂遺跡、大山町富岡播磨洞遺跡・安原溝尻遺跡』
中世土器研究会編1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
永原慶二編1995『常滑焼と中世社会』小学館
日本貿易陶磁研究会2002『中世後期における貿易陶磁器の様相』
乗岡実2005「備前焼の編年と流通」『島根県埋蔵文化財調査センター専門研修資料』
間壁忠彦1991『備前焼』ニューサイエンス社
松江考古学談話会1992『松江考古』第8号
松江市教育委員会1988『蘆沢A遺跡 蘆沢B遺跡 別所遺跡』



甕・壺・擂鉢の組成

	古市遺跡(石見)		横路遺跡(石見) (土器土地区、原井ヶ市地区の合計)	
東播	9	9.9%	鉢	5 10.6% 鉢
常滑	12	13.2%	口縁2	
備前	18	19.8%	擂鉢IV期5、V期7	10 21.3% 擂鉢III期1、IV期2
亀山	8	8.8%	同一個体?	
中国陶器鉢	15	16.5%	鉢口縁9、破片8、	2 4.3%
中国陶器甕	1	1.1%		9 19.1% 同一個体?
土師質	6	6.6%	擂鉢など	4 8.5% 擂鉢など
瓦質	14	15.4%	擂鉢、鍋など	11 23.4% 擂鉢、鍋など
滑石製鍋	8	8.8%	長崎産?	5 10.6% 長崎産?
瀬戸				1 2.1% 鉢皿
計	91	100.0%		47 100.0%

	喜時雨遺跡(石見)		殿屋敷遺跡(石見)	
土師質・鍋釜	142	24.0%		16 34.0%
土師器・鉢	48	8.1%		
瓦質鍋	275	46.5%		19 40.4%
瓦質鉢	79	13.3%		
常滑系	8	1.4%		5 10.6% 甕
瀬戸美濃	2	0.3%	天目など	1 2.1% 鉢
東播	15	2.5%	擂鉢	
備前	23	3.9%		6 12.8% 擂鉢
計	592	100.0%		47 100.0%

	七尾城(石見)		三宅御土居跡(石見)	
備前	32	12.7%		83 11.6%
瀬戸美濃	12	4.8%	天目、瓶子など	7 1.0% 鉢皿など
常滑		0.0%		17 2.4%
瓦質土器	52	20.6%		360 50.3%
土師質鉢・鍋	156	61.9%		215 30.0%
東播				33 4.6% 鉢
中国陶器鉢				1 0.1%
計	252	100.0%		716 100.0%

	沖手遺跡(石見)	
土師質・鍋	30	4.7% 足鉢1
土師器・鉢	63	9.8% 擅鉢46、鉢17
瓦質鍋	82	12.7% 足鉢15
瓦質鉢	158	24.5% 鉢69、擅鉢89
常滑系	19	2.9% 甕16、壺3
瀬戸美濃	42	6.5% 壺、天目など
東播	15	2.3% 鉢
備前	105	16.3% 擅鉢42、壺29など
瓷器系	53	8.2% 擅鉢12、甕10など
中世須恵器	65	10.1% 鉢13、甕25など
石鍋	13	2.0%
計	645	100.0%

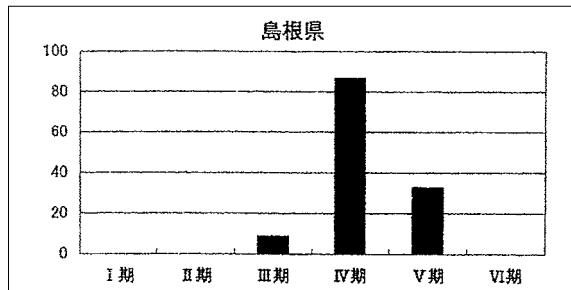
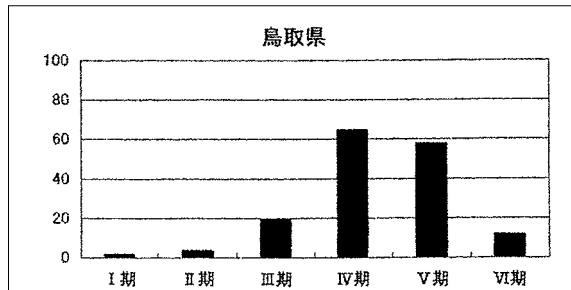
各遺跡の報告書、日本貿易陶磁研究会2002より榎原作成
甕・壺・擂鉢のみを集計し、分類の表現は統一していない。

	大井谷II遺跡(出雲・寺院跡)		矢野遺跡第2地点(出雲)	
土師質擅鉢	12	7.3%		27 11.0%
土師質鍋	2	1.2%		
瀬戸美濃	29	17.7% 烟台・椀・瓶など	3 1.2% 皿	
瓦質鉢類	23	14.0%	38 15.5%	
瓦質鍋	34	20.7%	15 6.1%	
備前	14	8.5% 擅鉢12、甕2	4 1.6% 擅鉢3、壺1	
瓷器系鉢	15	9.1%	1 0.4%	
瓷器系甕	21	12.8%	150 61.2%	
亀山系	11	6.7% 甕		
東播	3	1.8% 鉢	7 2.9% 鉢	
計	164	100.0%	245 100.0%	

	富田城 本丸・二ノ丸・三ノ丸(出雲)		浦の谷II遺跡・外浜遺跡(岐阜)	
備前	2,200	98.4% 甕、壺、徳利等		
瀬戸美濃	23	1.0% 天目、瓶など	3 7.3% 皿など	
越前	7	0.3%		
常滑系	2	0.1%	20 48.8%	
瓦質鍋・鉢	2	0.1% 鍋	11 26.8% 鉢	
瓷器系	2	0.1%		
土師質鉢			3 7.3%	
東播			4 9.8% 鉢	
計	2,236	100.0%	41 100.0%	

	米子城跡21遺跡(伯耆)		茶畠六反田遺跡・押平弘法堂遺跡(伯耆)	
土師質土鍋	135	9.4%		
土師器・甕	1,229	85.3%		
瀬戸美濃	3	0.2%		
常滑	1	0.1%	13 16.5%	
土師器・鉢	34	2.4%		
信楽	1	0.1%		
越前	1	0.1%	5 6.3%	
備前	11	0.8%	17 21.5%	
焼締陶器	17	1.2%		
土師器・瓦質	9	0.6%		
勝間田系			44 55.7%	
計	1,441	100.0%	79 100.0%	

備前焼出土数



伊藤晃ほか2004・乘岡2005から